

果樹農家のみなさまへ、時季ごとの耳より情報をお届けします

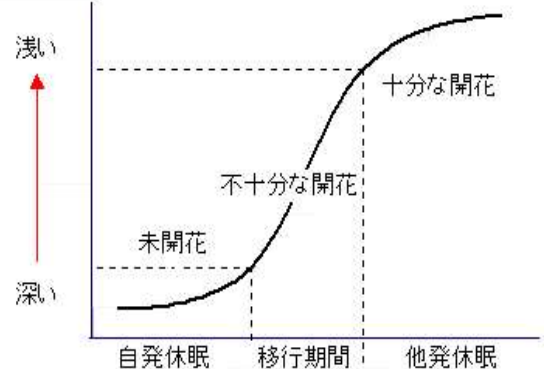


開花に向けてカウントダウン開始



- モモの芽は秋以降、最初に**自発休眠**という深い眠りに入り、途中で気温が高くなっても開花しません(図)。その後、一定期間低温にあたるこの状態は終了します。しかし、すぐに開花・発芽するわけではなく多少の移行期間を置いて、**他発休眠**という次のステージに入ります。
- 他発休眠は、温度等の他の条件が揃わないため開花へ足踏みをしている状態です。
- この状態への移行時期はモモでは1月下旬から2月上旬となります。つまり、今後は気温が上昇し、条件が良くなればその分開花に向けて樹の内部で準備が進んでいきます。
- 以前はモモの開花始めは4月に入ってからでしたが、最近では3月中の開花も驚かなくなりました。凍霜害対策も考えながら準備を始める時期です。

休眠の質



低温遭遇によって進行
図 モモの休眠期間(神奈川県農総研)



休眠期防除は適期に実施



- 開花始めまでに行う病害虫防除についてまとめました(表)。
- 休眠期防除は、樹体生育が開始する前に病害虫の初期密度を低減し、その後の生育期全般にわたり病害虫の発生を低く抑えるために行います。
- 近年は温暖化傾向により予想外に開花・生育が早まることがあるので、防除時期が遅くならないよう適期に行いましょう。

表 開花直前までに必要なモモの病害虫薬剤防除(JA全農やまなし)

散布時期	対象病害虫	使用薬剤
発芽前(12月~2月上旬)	縮葉病等	石灰硫黄合剤20倍またはチオノックフロアブル500倍
発芽前(石灰硫黄合剤散布後1週間以上あけて2月上旬まで)	カイガラムシ類	スプレーオイルまたはトモノールS 50倍。ウメシロカイガラムシが多い場合は30~40倍
3月中下旬(花卉が見えはじめる頃)((石灰硫黄合剤散布後2週間以上あける)	せん孔細菌病	ICボルドー412 30倍または4-12式ボルドー液
開花期まで(3月下旬まで)	コスカシバ	フェニックスフロアブル500倍
開花直前(4月上旬)	灰星病(花腐れ)、アブラムシ、ハマキムシ類、モモハモグリガ	アディオン乳剤3000倍